

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 共 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
発行人 内藤留幸  
編集主筆 竹澤知代志  
印刷所 株式会社きかんし



第38 教団総会が近づく中で、議論も白熱

## 第37 総会期

# 第6回常議員会

1 2 3 4 5 6 7

## 各教区総会問安の感想を披瀝

第37総会期第6回常議員会は、7月9～10日、教団会議室で、開会時30人中27人が出席し開催された。

古屋治雄常議員の説教による開会礼拝の後、議事に入り、総幹事報告で内藤留幸総幹事は、北村裁判に触れ、「北村慈郎氏が教団(代表役員 石橋秀雄)を被告とした裁判は、4月26日第1回法廷が開かれた、口頭弁論のための準備段階から始まった。6月25日に引き続き、8月にも行われ、秋から口頭弁論に入る。昨年、地位確認等仮処分命令申立書が東京地裁で扱われたが、北村氏側が取り下げた」との経過説明を行った。

また、総幹事は、「無任所教師名簿の整理に取り組み始めた。物故者も多いと思われ、長い間住所不明で連絡の取れない無任所教師

は、教規128条により、別帳、除籍の手続きを取る」と報告した。小宮山剛・教師委員長も「無任所教師名簿は40年間手をつけていないので、物故者、住所不明者だけでなく、教団に属していない人が教団の名で活動していることもありうる」と補足した。

引き続き、欠席した沖縄教区を除く16教区議長・議長代理が教区総会報告を行ったが、今常議員会では、初めて問安使側も感想を披瀝した。

「問安は、責務だと考えている。京都教区では別室で

の傍聴だったが、どのような扱いをされても問安する。沖縄教区には、心を痛めている。西教区とも、傍聴という欄に署名することに戸惑いを覚えた」

(石橋秀雄議長)

「大阪では、日の丸・君が代強制で、キリスト教主義学校への締め付けが強まっていることを感じた。卒業礼拝というところで切り抜けているが、今後大きな関心をもって見守って行きたい」(岡本知之副議長)

「地方教区では、支える側も、支えられる側も大変だと痛感した。東京教区が長

時間掛けて東日本大震災募金のアピールを行っていたのが心に残った」

(雲然俊美書記)

「西東京教区の立川伝道推進と、聖餐式がとても印象的だった。建議の扱いにやや疑問があり、建議がいつの間にか議案になってしまった教区もあった」

(内藤留幸総幹事)



各教区議長、各委員長等の陪席者席

て来たことにあり、教団離脱論から執行部支持まで幅広く、時に教規を超えて考えねばならないことも派生する。この問題は、常置委員の中に小委員会を設けて論議して来た。三役は、受け入れを提案したが、常置委員はもう少し論議を尽くして

からとの結論に至った」と答えた。

また、大杉弘常議員が、「教団新報の教区総会報告に、何故京都教区が掲載されないのか」と質問したのに対し、総幹事から指名された竹澤知代志教団新報編集主筆は、「7月中旬発行の

## 伝道推進室設置、室長に石橋議長

既に新報紙上において何度か報告がなされており、大きな関心が寄せられていた「伝道推進室の設置」が決議された。「伝道する教団」の具体的な実務を担う場が、教団の中に位置づけられた。

議案「伝道推進室設置に関する件」の提案者が石橋秀雄教団議長となっている点が注目される。今総会期に設置された伝道方策検討委員会からの、伝道推進室設置を含む提言を、三役が受け止め、三役と伝道方策検討委員会が議案として整理し、議長名で議案を提案したものであり、執行部の伝

道に対する覚悟が表れていると言える。

議案では、伝道推進室の組織について、室長1名、推進委員3名、担当幹事がそれに加わる形が示されており、予算について、会議費として百万円、実行費用として3百から5百万円が想定され、その費用は献金で賄うことが示された。

実務内容について、伝道キャラバンの企画・実施、伝道トラクトの作成、伝道礼拝・集会等の講師派遣、諸教会の伝道相談への対応、教師・信徒の研修等が謳われており、そこに提案理由が加えられる形で議案

は構成され、それぞれについて議論がされた。

まず、この伝道推進室が、伝道委員会の下に設置されているというこの是非について、次のような質疑が交わされた。現在の伝道委員会での働きを担うことができないのか、伝道委員会との関係は今後どのような形になるのかという質問に対しては、現在の伝道委員会が担える事柄には限界があり、その部分を補うような働きができればと考えており、その働きは恒常的

つまり、委員会として年に数回集まるようなものではなく、継続的な働きが求められる形である

た。また、自ずと人選も恒常的に教団事務所に集まりやすい人選、東京近辺からの人選となるだろうこと、またその人選は、伝道委員長並びに教団三役で行くと考えているという岡本知之副議長が答えた。

その他、予算の決済等についての問いに対して、基本的には室長判断で現場の決済はされるが、最終的には伝道委員会でも処理されること回答した。議論の後、賛成多数で議案は可決された。

次に、この伝道推進室の具体的な働きが、各教区や各教会への行き過ぎた介入にならないか、伝道がトップダウン方式で進むのではないかという危惧が、複数から述べられた。

これらの意見に対し、今回の伝道推進室は、上から下へという流れを全く意図しておらず、むしろ、各個

4752号に掲載する。但し、昨年に引き続き、教団新報の取材も拒否されたため、公表された教団総会議員の名簿のみの掲載となる」と答えた。

(永井清陽報)

お知らせ  
「教団新報」は今号を4754・55合併号とし、4756号は9月15日発行とします。  
総幹事 内藤留幸

### 共に祈り、支えよう！

#### 「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

記

目標額 10億円(国内のみ)  
期間 2011.7.1～2015.3.31  
振替番号 00110-6-639331  
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田

2-3-18-31

2012年8月  
教団救援対策本部長 石橋秀雄

## 荒野声

▼猛暑に備えて、緑のカーテンを植えている人は少なくない。最近のは定番の朝顔よりゴーヤの方が人気が高いと聞く。育てやすい健康野菜だから、一挙両得だ。▼我が家は何故かカボチャ。初めから狙ったものではなく、思わぬ方向に蔓が伸びて来て、結果そうなった。葉が大きいから遮熱効果は高いと思うが、風通しは悪いかも知れない。実がぶら下がっているのが、窓から見えてだけで4個ある。毎日大きくなっていくのは楽しみだ。▼しかしちょっと不気味だ。太い蔓がまるで鎌首をもたげ、窓から侵入しようとしている怪物のようにも見える。

果実は頭のように。毎日少しずつ近づいている。ウエストの『かかし』にも思える。いっそ目鼻を付けてハロウィンのカボチャにしたら、涼しいかも知れない。▼カボチャはアメリカが原産地と聞いて意外だった。カンボジャだと思ひ込んでいた。カンボジャの、電気も電話もなければインターネットも通じない寒村に、青汁の素のケイル畑が広がっている。この村から遮熱効果は高いと思うが、風通しは悪いかも知れない。実がぶら下がっているのが、試みに蒔いたら、日本の倍にも大きくなり、常時収穫できる。生野菜不足の現地の人大いに喜ばれているそうだ。実は、この種は元々我が家の庭から収穫したもの……これは自慢話。▼福音の種も、時かなければ芽生えることはない。



第 37 総会期 第 6 回常議員会

## 教区活動連帯金廃止、 伝道資金設置議案は、継続審議に



教区活動連帯金・伝道資金について  
議場に説明する岡本知之副議長

教区活動連帯金検討委員会から、従来の教区活動連帯金を廃止し、教区・教会の伝道を推進するための『伝道資金』を設ける」教規施工細則を新設することが提案された。

細則には以下のことが盛り込まれている。伝道資金の原資は分担金および献金からなる。分担金は、全教会経常収入の0.5%を教区現住陪餐会員数の比率により算出し、各教区より拠出する。

献金は、教区、教会、団体、個人から募る。その際、支出の用途を指定することが出来る。支出は、伝道交付金、教会土地取得のための貸付資金及びその他の伝道方策に対して行う。この内、伝道交付金は、分担金総額の5分の4を下回らない資金を当て、この資金の必要度の高い教区に申請によって交付される。その際、これまでの教区活動連帯金における実績と新しい評価

基準が考慮される。教会土地取得のための貸付資金は、分担金の5分の1を限度として積み立てる他、指定献金があれば、これも積み立てる。

伝道資金は、経常会計より特別会計に繰り入れられ、予算決算委員会及び伝道委員会のもとに運用される。ただし、伝道委員会のもとに伝道推進室が置かれる場合には、伝道推進室が行う。

提案理由の中では、従来の教区活動連帯金制度の行き詰まりを受けて作られる制度であること、伝道資金は、教区・教会の伝道推進という目的を持ち、その中に、教区間格差是正が位置づけられること、伝道資金では、すべての教区が資金創出のために0.5%の分担保し、東京教区と西東京教区

には加算分担金を要請するため、格差是正の要素を持つていること等が述べられた。

この提案について、以下のような意見が出された。伝道交付金において、これまでの実績が評価基準とされている点につき、新しい規則に則って行うべきであり、評価基準とするにしても期限を設けるべき。東京教区、西東京教区のこと、安易に入れるべきではない。議案について理解を深めるために、教区議長会議を開くべき。新設される伝道推進室が様々な事情を勘案出来るかどうかには疑問がある。

総会を目指して、継続して審議する動議が出され、24名中15名の賛成で継続となった。

(嶋田恵悟報)

## 「東京神学大学との関係を回復する件」 総会議案に、 聖礼典についての議案も

第2日目最後に次の2件の議案が審議された。

「日本伝道の推進と教団の教師養成の重要性をふまえて、教団と東京神学大学との関係を回復する件」(提案者・議長、「信仰告白」と「教憲・教規」における洗礼と聖餐の「一体性と秩序」を確認する件」(提案者・岡村恒常議員)。

「東京神学大学との関係を回復」は、日本伝道を推進し、伝道する教団を建設するために教師養成は重要な課題で、特に教団立神学校である東京神学大学との関係を再構築するのが急務であるとし、同大学との関係を回復することを提案している。

提案理由の中で、第17、18教団総会において議決された東京神学大学に対する非難決議は適正を欠いたも

のであると認め、これらの諸決議ゆえに東京神学大学と教団の関係が現在に至るまで正常化できていないことを述べている。

また35教団総会における山北宣久議長報告「荒野の40年」で、東京神学大学の機動隊導入に対する「一方的断罪ゆえ関係正常化できないでいることを主の御前に懺悔する」と述べられたことを取り上げている。

質疑では、提案に賛同する意見、非難決議の誤りを確実に検証して内実ある決議とすべきとの意見が述べられた。原案を賛成多数により可決し、38教団総会に提案する議案とした。

「洗礼・聖餐の一体性、秩序の確認」は、教団信仰告白における「バプテスマ」と主の晩餐との聖礼典を執り行ひ」との告白と、教憲



伝道する教団には、教団立神学校との関係回復は急務と訴える石橋議長

教規の諸規定は、洗礼と聖餐の一体性と秩序、洗礼を受けた後に聖餐に与ること、告白し規定していることと確認することを提案している。提案理由の中で、公同教会である日本基督教団は、神の民の信仰共同体であり、この共同体の一員になるためには三位一体の神への信仰を告白し洗礼を受

けねばならず、洗礼を受けた者が主キリストに連なっている恵みを確認し感謝することが聖餐であり、洗礼と聖餐の聖礼典は切り離しがたく結びついている、とされている。賛成多数により原案を38教団総会に常議員会提案の議案とすることを可決した。

(渡邊義彦報)

## 牧会者とその家族のための相談室設置は 差し戻し

### 《その他の重要な議案》

「総幹事選任に関する件」について、内藤留幸総幹事の任期満了に伴い、教団三常議員会提出議案として提案されることになる。

「日本基督教団部落解放センター規約変更に関する件」が上程され、部落解放センター・東谷誠運営委員長は、前回以降の経緯として、教団三役から部落解放センター運営委員会へ送付された「日本基督教団部落解放センター規約変更に関する件」(1月19日話し合い、覚え書き)を、運営委員会で審議し、最終的にその意見を受け入れて今回の提案となったことを説明した。質疑では「各教区で部落解放等にかかわる特設委員会の長と解放センター運



長崎哲夫常議員(東日本大震災救援対策室室長)、教団三役より、総幹事候補として推薦された。

営委員の関係について、また活動委員25名の根拠を示して欲しい」との質問がなされた。東谷委員長は「17教区の運営委員は、センターと教区の活動のパイプ役を果たす。また活動委員は活動毎に担当者を置き、現在25名となっている」と答えた。採決の結果、規約変更案は承認された。

「センター明確化に関する諸規則制定に関する件」が上程され、特設委員会の高橋潤委員長より説明がなされた。質疑応答は主に「教

団内センターではない、他の法人化等を選択する場合の対応」、「所有移転」による課税への対応、「運営委員会の組織、選任権者」の3点に亘ってなされた。高橋委員長は「委員会は教団内センター化の規則整備を進めるが、別法人を選択する所はその準備を進めてほしい」、「課税に関しては、各センターの事業内容等で相違し、委員会では対応することができない。各地で管轄の税務署等と協議していた方がよい」、「運営委員の人選等で協議は行うが、選任権者は議長と常議員会とした」と答弁した。その後、採決がなされ、提案通り承認された。

宣教委より提案された「牧会者とその家族のための相談室」設置に関する件については、「面談となった場合場所を確保できるか、配慮が必要」、「守秘義務の守られ方等について、様々な意見交換がなされた。それらの意見をふまえて新たな案を得るため「差し戻し」の動議が出され宣教委での再度の協議、立案を求めることとなった。以上の議事扱いについて、張田眞宣教委員長からは「教団三役から委員会に説明されていた内容と相違する」との抗議がなされた。

その他、「11年度部落解放センター決算」「同12年度予算案」「11年度出版局決算」

「年金局事業報告ならびに決算書」等が承認された。また「能登半島地震」被災教会会堂等再建支援金会計監査選任の件」は、三役一任となった。日本基督教団出版局理事会規則変更承認に関する件」は、規則文中の「出席」を「陪席」に変更した上で承認された。

教団総会準備委員会報告が、特に異論もなく承認された。

議事日程、奉仕者、議場の使用方法等について、詳細な準備状況が示され、特に選挙方法については、次の点が提案された。

選挙方法は、議事への時間配分と投票委員の議事参加を考慮して、予備選挙を



柴田もゆる西中国教区議長、伝道資金をはじめ各教区の利害に繋がる議案が多く、各教区議長の発言が目立った。

(宣教協力学校協議会、近藤勝彦(東京神学大学)、水谷誠(同志社大学)、水野隆一(関西学院大学)、小林誠治(日本聖書神学校)、高柳富夫(農村伝道神学校)、深谷春男(東京聖書学校)、ウェイン・ジ

ヤンセン(RCA)、李孟哲(台湾基督教長老教会)、朴憲郁(在日大韓基督教会)、宮原守男(顧問弁護士)、守永誠治(顧問会計士)、持田二郎(出版局)、岡田義信(常任常議員)(松本のぞみ報)



各教区支援希望額大枠が示され

## 教団救援対策本部第13回会議

災教会の現状報告がなさ

# 知花スガ子宣教師派遣式

就(外)小川文子	大韓イエス教長老会神学大	学	ケルン・ボン日本語キリス	下教会	就(外)洛雲海
就(外)齋藤 篤	就(外)林原泰樹				

龍場公郎、佐野嘉壽雄、  
相澤眞喜、中村忠明、  
棟居 勇、輕込 昇、  
小池基信、田中清嗣、  
足立 守、中村 澥、  
野村 喬、柳幸三郎、  
難波 巖、佐伯昌祥、  
北野久義、溝口賢次、  
松本希和、青野 清、  
関 英晴、日下部勝、  
下村邦夫、小久保達之佑、

廣田 登、中島保壽  
隠退より復帰  
上野清次郎  
教会通信先廃止  
矢板  
お詫び・訂正  
「教団新報4753号」2  
面、「世界宣教委員会記事  
3段目最終行「長女玲羅さ  
んを」次女玲羅さんにお  
詫びして訂正いたします。  
(世界宣教委員会)

ボリビア福音メソジスト教会  
ラ・グロリア教会へ

安来	就(教)前田美和子	須崎	辞(主)黒田若雄
〃	辞(代)宗 保子	〃	就(主)秦 貴詞
〃	就(代)大野光信	高知	辞(主)野村和男
就(兼担)宮田 征	〃	〃	辞(担)三浦水悟
松江北堀	辞(担)土肥香織	〃	就(主)黒田若雄
聖愛会松山ベテル病院	辞(担)姜 俔米	就(担)姜 俔米	
山崎	辞(教)村井 仁	伏見東	辞(代)樋口 進
就(主)村井 仁	〃	〃	就(主)与田正和
聖學院大学	辞(教)阿久戸光晴	北白川	就(担)永口裕子
		世光	就(担)大坪哲也

# 消息



# 事務局報

教師異動

長崎銀屋町 辞(主)原 和人  
" 就(主)竹内款一  
長崎滑石 辞(代)森島 豊  
" 就(代)藤井清邦  
津屋崎 辞(主)茶屋明郎  
若松 辞(主)染森孝義  
" 就(主)茶屋明郎  
瀬高 辞(主)中島保壽  
筑後福島 辞(代)中島保壽  
手稻はくぶね 辞(代)黒田 靖  
" 辞(担)佐藤紀子

事務局報

〃	就担齋藤恵子	長崎平和記念	辞(主)森島 豊	青山学院大学	就教森島 豊	恵泉女学園中学校高校	辞(教)佐伯幸雄	日本聖書神学校	辞神今橋 朗	阿佐ヶ谷	辞担姜 俔米	字和島信愛辞(主)近藤 誠	就代森分信基	〃	就代森分信基	〃	就(主)清水朝子	〃	就(主)菊田行佳	新居浜西部辞(代)宇賀 充
---	--------	--------	----------	--------	--------	------------	----------	---------	--------	------	--------	---------------	--------	---	--------	---	----------	---	----------	---------------

松本希和、青野 清、  
関 英晴、日下部勝、  
下村邦夫、小久保達之佑、  
廣田 登、中島保壽  
隠退より復帰  
上野清次郎  
教会通信先廃止  
矢板

---

お詫び・訂正  
「教団新報4753号」2  
面、世界宣教委記事  
3段目最終行「長女玲羅さ  
ん」を「次女玲羅さん」に、お  
詫びして訂正いたします。  
(世界宣教委会)



# 神の迫りに押されるようにして

## 《教団東日本大震災救援対策本部主催》北海道報告会



上、札幌北光教会での報告会で、石橋議長、前北主事  
下、札幌教会での交流会

日本基督教団東日本大震災救援対策本部主催による北海道報告会が、7月14日(土)、札幌北光教会(後宮敬爾牧師)を会場に開催された。

開会礼拝では、北紀吉救援対策本部委員が、マルコ福音書5章の「ヤイロの娘とイエスの服に触れる女」の箇所に基づいて、次のように説教した。

35節「お嬢さんは亡くなりました。もう、先生を煩わすには及ばないでしょう」。亡くなったから全ては終わった、後のことは無駄だ。人生は死の支配によって終わる。「先生を煩わすには及ばないでしょう」とは死の支配の前にはイエス様も無力だということだ。誰もがそう思った。しかし36節、「恐れることはない。ただ信じなさい」と、イエス様は言われた。人の望みが尽きた時にこそ、信仰が問われる。人の望みが尽きた所に、主はともいて下さる。

39節「子供は死んだのではない。眠っているのだ」。死の支配で全てが終わるのではない。今、この時、十字架の死から甦られた方の出番だ。311の悲惨な現場を目にした。

今も困難が続く、しかし、イエス様の業に手遅れはない。私たちにも、イエス様に従ってなすべきことがある。

石橋秀雄教団議長は、震災救援に対する北海道諸教会の協力に感謝を述べてから、震災遭遇以来の出来事を、順を追って報告、説明した。

あの時、東京神学大学では卒業式の最中であり、学長の説教が6分間途絶えたということから話を起こし、三鷹から早稲田の教団まで、人の流れに逆らい、しかし、神の迫りに押されるようにして、徒歩で辿り着いたこと、直ちに被災地に向かい、現地で主日礼拝を守ったことなど、生々しい体験が語られた。

東京神学大学の学生によりいち早く行われたボランティア活動など、数多くのエピソードが明らかにされた中で、一つのことについて紹介する。

出張中に津波に遭い、民家の屋根の上で一夜を過ごし、濡れなかったネクタイ一本だけが、凍えから身を守る僅かな温もりだったという壮絶な体験をし、やっとの思いで石

巻まで辿り着いた青年を、会社のある仙台まで車に乗せた。道中、体験談を聞きつつ、会社に着いた時、同僚の婦人が、「何してたのよ!」と怒鳴った。勿論心配のあまりだ。携帯が使えず、連絡方法は一切なかったのだ。青年は、涙声で答えた。「みんなに助けられて生きていたんだよ」。

実は、この青年は、単に助けられたのではなく、出合った人々の家で、緊急の事柄を手伝い、自分が被災者でありながら、誰よりも早くボランティアとして働いていた。しかし、むしろだからこそ、「みんなに助けられて生きていたんだよ」という言葉になったのだ。

前北米央前救援対策室主事は、エマオを根拠地としたボランティア活動の全体について、一つひとつを詳細に報告した。特に「こひびじキャンプ」のことや児童の諸施設へのエアコン設置応援など、ややもすればその必要性・緊急性が理解して貰えない事業について、懇切丁寧に状況を説明し、支援理解を請うた。

この圧倒的な出来事の前で、何かをしないではとの思いつから、一人のボランティアとして仙台に身を投じた体験から始めて、諸活動については、その中に身を置いた者しか語り得ない苦悩、逆に喜びが披露され、その震災復興支援にかける情熱は心に染み入るものだった。

幹事に見出され、請われて、教団でコーディネーターその他の働きを担うようになって一年が経った。諸般の事情から7月5日付けで職を退いたとのことだが、教団は容易に得難い人材を失ったのではないだろうか、とさえ思わされた。

尚、15日には、日本伝道会とタイアップし、講師と新報取材担当者が札幌市内の3教会で礼拝説教の奉仕をし、伝道集会を持った。

午後には、折しも札幌教会で行われた札幌教会関係5教会の交流会に合流し、ここでも震災対策の報告会を持った。特に、石橋議長は請われて腹話術を披露、小さい子どもたちを興奮のつぼに陥れた。

交流会では、北海道の文化財にも指定されている趣き深い札幌教会・米倉美佐男牧師の礼拝堂の前庭で、羊肉のバーベキューが行われた。

観光案内パンフに掲載された礼拝堂を目当てにやって来た観光客が、しばし立ち止まり、礼拝堂と共に、バーベキューの様子をもシャッターに納め、ちょっと変わった伝道となった。



一瀬 和子さん

母から受けたものを、  
更に新しく生きる恵み



1930 年生まれ。九段教会員。

80歳を過ぎ、長い年月、主の恵みに支えられ生かされてきたことを心から感謝している。その間、いつも教会の交わりに生かされ、支えられてきた。

父を早くに亡くし、幼い頃から母と二人きりの生活だった。明治生まれの女性ながら、献身し、神学科で学んだ大愛信仰深い人で、婦人伝道師として日本メソヂスト教会に仕えた。母が天に召されるまで、離れることなくその後姿を見て生きてきた。母の祈りによって、私がキリスト者として生きるべき道が備えられたことを思う。

3歳で日本メソヂスト高町教会(現在の浜松教会)で幼児洗礼を受けた。第二次大戦の時代を挟んで15年、浜松で教会生活を

を送った。共励会(青年会)の一員として戦後の教会を支えた。母と共に上京してからは、九段教会で信徒として過ごしてきた。もうすぐ60年になる。

母は、九段教会で幹事(役員)として、また、東京教区東支区の委員としても奉仕していた。しかし、後進に道を譲り新しい人を育てていくべきとの思いから、一切の御用を80歳を機として退いた。今、母と同じ道を歩んでいる私自身、その教えに従う時が来たと考えている。

教会は、共同体を形づくるための指針としての伝統を守っていくべきだと信じている。九段教会は、設立以来137年、何代にもわたりメソヂストの信仰を持つ教職によって導かれ、信

徒が集い、主にある聖徒の交わりを培ってきた。変わりやすい風潮、飽きやすい現代に伝統を保ち続けるのは楽ではないが、過去を否定するだけでは、新しい堅固な信仰生活を育てることは難しいと感じている。

今の日本でメソヂストであることを標榜するのはおかしいという意見もある。かつての私自身、何も知らないままに、キリスト者として何のこだわりもなく礼拝を守っていたことを思い起こし、私の考え方が古いのではないかと危惧することもある。

温故知新と言われるが、私が母から受けたものを新しく生きることを通して、若い世代に魅力ある信仰生活を示していきたいと、心から願っている。

る神に「やさげる」のです。ローヌ。

東日本大震災救援活動は時と労力をやさげるボランティア活動も被災教会の会堂再建に用いられ、献金をやさげることも共に被災者たちを支え、勇気づけることになり、それは端的に言って、生ける神のみに添う業であるといっ

「やさげる」喜び…

べき礼拝です。記されています。献身こそ礼拝というわけです。わたしたちは、自分の人生全体を生ける神に献げ、神の救いのみ業のために用いていただくことを信仰者の喜びだと信じているので

東日本大震災救援活動は時と労力をやさげるボランティア活動も被災教会の会堂再建に用いられ、献金をやさげることも共に被災者たちを支え、勇気づけることになり、それは端的に言って、生ける神のみに添う業であるといっ

(教団総幹事 内藤留幸)